



洋書輸入協会会報

Vol. 25 No. 12 (通巻295号) 1991年12月

理事会報告

9月24日(火)

(一) 第5回日米大学図書館会議

先に要請のあった、第5回日米大学図書館会議(1992年10月6日～9日、東京にて開催)への協力につき意見を交換、引続き検討することにした。

(二) 7月、8月分収支計算・予算対比表

9月13日(金)総務委員会での検討にもとづく神田俊二氏(丸善)の報告を承認した。

(三) 協会創立50周年記念行事

50周年記念行事特別委員長、佐々木大刀夫氏(第一出版貿易)より、9月11日(休)に開催した式典、講演会および祝賀会は、招待者28名、会員160名の出席があり盛況であったこと、およびその経費についての報告があった。

(四) 顧問の委嘱

相良廣明氏に、引続き1993年9月までの顧問就任を応諾していただいたことが事務局長より報告された。

(五) その他

10月15日(火)

(一) 9月分収支計算・予算対比表

10月4日(金)総務委員会での検討にもとづく神田俊二氏(丸善)の報告を承認した。

(二) 入会申込み(正会員)

下記の入会を承認した。

CCH Japan Limited (代表者 ロナルド・スレスキー)
〒104中央区京橋2-8-2 京橋MKビル6F 電話
03-3563-4591)

(三) 1991年12月7日(土)～14日(土)にロンドンにて開催される「オンライン国際会議」への参加ツアーを催すことにした。

(JBIA No. 651参照)

(四) その他

第23回洋書まつり

毎秋恒例の洋書まつりが、10月18日・19日の両日、神田駿河台下東京古書会館にて開催されました。今年は天候に恵まれ、開場より人波は途切れることなく、初日の売上げは400万円に達し、2日間の合計は723万円を超え、史上最高を記録しました。

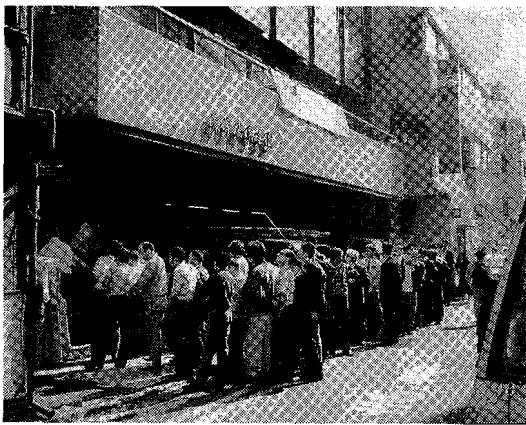
日本テレビより取材があったのは18日午前、押し寄せる人でごったがえしている最中でした。「洋書に親しむ」をキャッチフレーズに、事業委員長の前橋さんが説明に

理事会報告	1	第61回72会ゴルフコンペ	2	洋書輸入協会史(66)	3
第23回洋書まつり	1	総代理店ご案内	2	東京の坂と橋と文明開化(19)	5
文化厚生委員会だより		おしらせ	2	広告	6

あたり、この日の夜11時のニュースに映像が流されました。洋書輸入協会の催し事がテレビ電波にのるのはこの「洋書まつり」が唯一なのではないでしょうか。

史上最高の売上げとは史上最高の忙しさをも意味します。ボー大な人と書籍をよくさばき、混乱もなくスムーズに運営できたのも参加各社のみなさん、とりわけ国際書房の田代さん、海外出版の門馬さん、J.ワイリーの長谷さん、ナウカの花山さんらの活躍のおかげです。ここに紙上をお借りして、お礼申し上げます。

みなさまありがとうございました。来年もよろしくお願ひ申し上げます。(SN)



文化厚生委員会だより

第61回72会ゴルフコンペ

高根カントリー倶楽部 1991年9月26日(木)

毎週台風の話に事欠かない9月後半でしたが、曇天、無風、コース良しとゴルフをするには最高のコンディションの下で第61回コンペが行われました。あわせて第51回から第60回までの優勝者による持ち回りの大カップの取り切り戦が行われました。本戦では前半ハイペース。一年数ヶ月ぶりに参加の尼子さん(紀伊國屋)がいきなりNet 4 アンダー、それに一打差で72会復帰2戦目の竹村さん(丸善)、そして和田実さん(ユサコ)がアンダーについてゆく激しい先行競い。ランチタイムではすでに自分の優勝をあきらめた仲間は優勝者の予想。そして後半戦へ。前半気合を入れすぎた2人、やはり息切れかと

思われましたが、粘り切りました。そして三宅さん(丸善)が追い込むもとどかず惜しくも3位。紀伊國屋、丸善勢の上位独占となりました。

変って大カップ取り切り戦。資格を持つ9名のうち、6名が参戦。2年半に一度のチャンスに挑みました。そして過去10回の優勝者の名前入りのリボンの付いたカップを手にしたのは、実力と強運の持ち主、後藤さん(フェファ)でした。大事に家に飾っておいて下さい。

優 勝	尼子英二(紀伊國屋)	41.48	NET 71
準優勝	竹村政彦(丸善)	42.49	NET 73
3 位	三宅昭三(丸善)	48.45	NET 78
ベストグロス	内山芳正(日貿)	88	
ドラコン	三宅昭三(丸善)、内山芳正(日貿)		
ニアピン	前原憲夫(三洋)、鈴木玲二(日本レンタカラー)		

取り切り戦

優 勝	後藤明美(フェファ)	46.43	NET 78
準優勝	和田実(ユサコ)		
3 位	前原憲夫(三洋)		
4 位	小関妙子(名著)		
5 位	中林三十三(日貿)		
6 位	吉本明城(紀伊國屋)		

(S.W)

総代理店ご案内

日本出版貿易(株)

Tel. (03) 3292-3755

Fax. (03) 3292-8766

National Geographic Society (U.S.A)

.....All books

おしらせ

メイナード出版株式会社、インターナショナル ラーニング システムズ(ジャパン) リミテッドは下記に移転いたしました。

新住所: 〒170 東京都豊島区西巣鴨1-2-5小倉ビル

電 話: メイナード 03-5394-3500

ILS 03-5394-3511~14

FAX: メイナード 03-5394-3505

ILS 03-5394-3515

洋書輸入協会史 (66)

洋書輸入協会顧問 相良 廣明

73 外貨事情改善に伴う外貨使用の制限緩和

岩戸景気によって外貨事情が若干改善されたことにより、今までの厳しかった外貨使用の制限が、次のような諸点において少しずつ緩和され始めた。

73.1 外国為替取得手続きの簡素化…個人送金可能となる。

昭和34(1959)年4月24日に大蔵省から発表された外国為替取得手続きの一部簡素化は、5月1日からの実施となった。その内容は、個人の使用する新聞、定期刊行物及び書籍の購入費について、外国為替銀行で100ドル以内の外貨送金を可能とするというものである。

この措置は、洋書輸入業者の輸入手続きには直接の関係がないとはいえ、影響は大であらうと予測された。しかし蓋をあけてみると、個人による購入は一見安価に買えるようでも何かと面倒なことが多く、殊に何かの事故が起きた場合にそれがすべて自己負担になるということから、大方の予想に反して個人の直接購入が急増するという現象は起きていない。(昭和34('59)年5月11日付、JBIA No. 73)

上記の「100ドル以内」ということは、3ヵ月間で100ドルということであったが、これが昭和35('60)年1月15日の大蔵省発表によれば、1回100ドルとなり、団体への加入金が3ヵ月に100ドルから200ドルに増額されている。

73.2 対外支払い手段取り決め制限の緩和

昭和34('59)年6月1日付の通産省告示並びに注意事項は、次のように発表している。即ち、従来自動承認制による輸入は、承認額の80%以上の対外支払い手段(信用状開設、手形決済、送金)が、承認日より1ヵ月以内になされない場合は、「対外支払い手段取り決めに関する許可申請」を必要としていたが、6月1日以降承認のものより一部が制限緩和され、「書籍及び定期刊行物」については、下記に限り同申請は不要となった。

1. 輸入承認証金額が36万円(1,000ドル)相当額以下の場合

2. 委託販売方式による輸入の場合

3. 貨物代金の通関後、4ヵ月を超える後払いについて、標準外決済の許可を受けた場合

(昭和34年6月1日付、JBIA No. 77には、更に詳細に説明が加えられている)

次に昭和35('60)年3月22日付の通産省公報 No. 3116によれば、対外支払い手段の取り決めの制限が更に緩和され、輸入貿易管理令第4条第2項第2号の規定による輸入の承認を受けた者が、その承認に係る貨物の輸入に関し、1,000ドル以下は自由に支払ってよろしい、On Saleも銀行窓口で扱える(これは従来通り)、輸入の日から4ヵ月以内決済という制限がなくなって6ヵ月の期限がフルに使えるようになった、通産省まで出向く必要がなくなった、などとなっている。

73.3 担保率の引き下げ

昭和32('57)年6月から5%に引き上げられていた輸入担保率は、翌s33('58)年6月から3%となり、更にs34('59)年6月から1%に引き下げられた。この水準は、岩戸景気の末期のs36('61)年9月まで続く。

73.4 自動承認製品目の包含範囲拡大運動(第三次)

書籍及び定期刊行物の自動承認制包含範囲拡大を目的とする第二次の運動は、昭和34('59)年4月1日付の通商弘報によるA・A制輸入公表で目標の半分を達成した(JBIA会報 Vol. 25 No. 5 1991年5月号所載、協会史 No. 61の第65章参照)。

しかしこの成果はあくまでも目標の半分でしかなかったので、外貨事情改善の傾向に乘じ、残り半分の「カレンダー・クリスマスカード類、日記帳」を包含する運動を、改めて昭和34('59)年11月末から起こしている。(11月30日付、JBIA No. 90)

この第三次の運動は、この後10ヵ月にわたって展開され、その成果を見るのが昭和35('60)年10月からということになるので、運動経過の詳細は昭和35年度の記述に先送りすることとする。なお昭和35('60)年1月22日に開催された懇談会席上において、出席された通産省係官からA・A品目の枠拡大について興味のある話がなされているので、それを紹介しておこう。

その当時、通産省の担当官に異動があり、新旧の担当官を同業会の懇談会に招請して話をして貰った。

旧担当官より：貿易自由化の方向が急テンポで進みつつある。この際、取り扱い品目が自動承認制に最も早く取り入れられた書籍業界の方々に、これから A・A 制に包含される品目を取り扱っている業界の人々の先達となり、模範を示されるよう要望したい。

新担当官より：洋書輸入協会より要求の出ているカレンダーなどの品目は、繊維局扱いの雑品とも関係があるので、関係方面と折衝の上で御返事をしたい。外貨事情の先行き見通しについては楽観論が横行しているが、これはアメリカの景気によって左右される度合いが強いので、手放して楽観は出来ないと思う。従って貿易自由化の今の勢いがいつまで続くかは全く不明であり、これが弱まる可能性も多分あるであろう。なお悪化しても書籍・雑誌への影響は多分少ないであろう。

74 昭和34 (1959) 年度 (s34、4月～s35、3月) の規約改正、理事改選、新入会員、退会者など

74.1 規約改正

昭和34 ('59) 年 5 月20日に開催された協会の定時総会において、関西支部再開に伴う理事 (支部長) 1 名増員の件、名誉会長設置に伴う規定追加と、従来の規定をより明確にするための字句の修正、追加とが理事会一任となった。これにより理事会において検討の結果、次のように案を作り、昭和34 ('59) 年 5 月26日付の JBIA No. 76 にて会員に配布し意見を求めた。

記

規約変更の件

先般総会において御賛同を得ました頭記の件につき、下記の通り訂正致したいと思いますので、御意見がありましたら至急お知らせ下さい。

洋書輸入協会規約 (訂正案)

第 5 条 一部分追加

支部は本規約にのっとり支部規定を設けることが出来る。

第 6 条 一部分訂正

理事 6 名以内 (旧 5 名)

第 7 条 訂正

理事は会員中より総会に於て選任する。但し内 1 名は関西支部より推薦されたるものを選任する。理事長は理

事の互選により決定する。

第11条 新設 (依って以後 1 条ずつ順送りとなる)

本会は名誉会長を置くことが出来る。名誉会長は理事会の決議により理事長がこれを推薦する。

第12条 一部分追加

4 項 海外出版物の調査、研究、宣伝、海外文化の紹介に関する事項。

5 項 (新設) 本会の事業を会員並びに一般に周知せしめる事項。

6 項 旧 5 項が 6 項となる。

第13条 一部分追加

会議を定時総会、臨時総会、理事会および懇談会の 4 種とする。

定時総会は毎年 5 月開催し、事業の報告、決算並びに予算、理事会の提案事項、その他本規約に規定した事項を協議決定する。

理事会は毎月 2 回これを開催し、本会運営の方針および重要事項を決定する。

懇談会は原則として毎月 1 回開催し、会員相互の連絡並びに理事会の諮問に応ずる。

臨時総会事項は従来通り。

(以上)

以上の案は、その後そのまま決定されている。

74.2 関西支部規定新装制定

昭和34 ('59) 年 5 月20日の定時総会において、関西支部再開の件が議題となり可決され、併せて関西支部規定案も、5 月28日の支部総会において審議され、その後本部により承認されている。(JBIA 会報 Vol. 25 No. 7～8. 1991 年 7・8 月合併号所載、協会史 (63) の第 69 章「関西支部に関する件」参照)

74.3 理事選任と新理事

理事全員が再選され、丸善が理事長に互選された。また、関西支部推薦の新理事として緑書房 (代表者 丹羽正之氏) が選任された。即ち新理事は、丸善株式会社、紀伊國屋書店、日本洋書販売配給株式会社、福本書院、教文館、国際書房、緑書房の計 7 社となる。 (続く)

東京の坂と橋と文明開化 (19)

お茶の水の橋とニコライ堂〔3〕 第2の開国

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

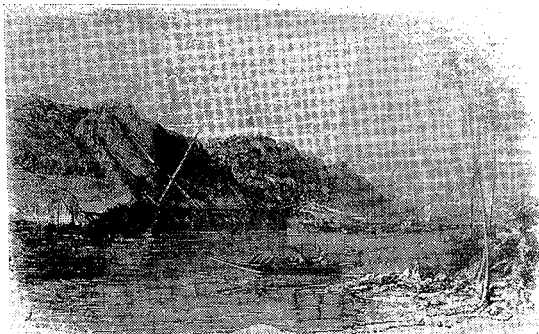
米国使節ペリーが浦賀に現れたのは1853年(嘉永6)6月3日であった。その頃ロシア帝国の第3回遣日特使プチャーチン海軍中将(Evfimij Vasil' evich Putyatin)は小笠原に向け太平洋の波濤を分けていた。アメリカに負けたくなかった。日本に開港をせまる米国の艦隊派遣の動きをキャッチしたロシアは、ペリーより1ヵ月も早く本国を出帆したのであるが、長崎にその艦影を見せたのは彼に遅れること約1ヵ月半、7月18日のことであった。横っ腹に拳銃をつきつけるようなペリーの乱暴な対日戦略は、実はロシアの二度に及ぶ遣日使節の失敗を分析して生れたものであったという。そして成功する。これに反して、日露和親条約交渉にのぞむプチャーチンの姿勢は終始一貫紳士的で気品に満ちたものであった。

さて、プチャーチンを派遣したロシアの第1の目的は日露の国境画定であった。幕府は大目付筒井肥前守政憲や勘定奉行川路左衛門尉聖謨を応接掛に任命した。プチャーチンの厚い信頼をえて交渉の中心となった川路聖謨は小身の家に生まれながら幕府の勘定奉行兼海防掛、軍制改革掛、外国奉行などを歴任して幕末の開国の激動の中で重用されたが、最後は江戸城の無血開城確定の慶応4年短銃で自決した幕末の偉材の一人であった。

日露会談は1854年(嘉永7)11月3日下田で本格的に開始された。そしてその翌日、マグニチュード8.4という巨大な「安政の東海大地震」が伊豆・東海地方をゆさぶり、次いで襲ってきた津波で下田は壊滅する。この時プチャーチンの乗艦ディアナ号も大破し犠牲者のでた惨状にもかかわらず医師の派遣など下田の救援に手をさしのべる。幕府は洋式艦船の建造技術習得という観点からディアナ号の修理に協力することになり、伊豆の戸田を造船の地に選定してディアナ号を回航するが、その途中今度は台風に見舞われて沼津田子ノ浦の海岸に押し流される。その遭難を目撃したこの一帯の村人は、自らも地震の被災者でありながら乗組員の救出、積荷の陸揚げに総出の救援活動をおこない、度重なる不運に遭遇したロシア人に「肝に命じて忘れない」程の感謝を受ける。その後努力のいかなくディアナ号は沈没し新船を建造することになるが、総員500名を擁する大使節団を受け入れた

戸田村は当時人口3,000、この降って沸いたような幕府の措置は村人にとって正に驚天動地の出来事であったに違いない。幕府も現地取締に江川太郎左衛門を任じて万全の警備態勢を敷いたが、しかし造船をめぐる共同作業の中から住民とロシア人との交流が生まれ、しかも人間同士の心の通った暖かい接触が戸田村で盛り上がっていったのである。幕府の政策はともあれ、ロシアへの開国は先ずこうして民衆の間で始まった。勿論この間厳しい日露交渉は回を重ねていた。そしてその年の12月21日「日露和親条約」が締結されるが、そのうち国境画定問題だけを見ると、先ず千島列島はウルップと択捉島の間を国境とし、樺太は未分割のままこれ迄のしきたり通り両国で共有するというものであった。最終的な国境の画定は明治8年(1875)の千島・樺太交換条約まで待たなければならない。

戸田で建造の「戸田号」と名付けられた船は20人乗りの程の小船ながら初めての外洋航海用洋式船で、これに係わった船大工達は後に横須賀海軍工廠や石川島造船で近代的造船を担う技術者となる。またこの時密出国した橘耕斎はペテルブルグ大学で初の日本語教師となり、後の初代駐日領事ゴシケヴィッチと共編で1857年(安政4)に日露辞典『和魯通言比考』を上梓する。なお明治政府は日露親善に尽くした功績を賞してプチャーチンに勲一等旭日賞を贈った。幕末に条約交渉で来日した外国人への唯一の授章であった。そして戸田村村民の親切がよっぽど嬉しかったのであろうか、80歳の生涯をバリで終えたプチャーチンの遺言によって明治23年100ルーブルが戸田村に遺贈される。日露戦争へまだ14年の歳月があった。



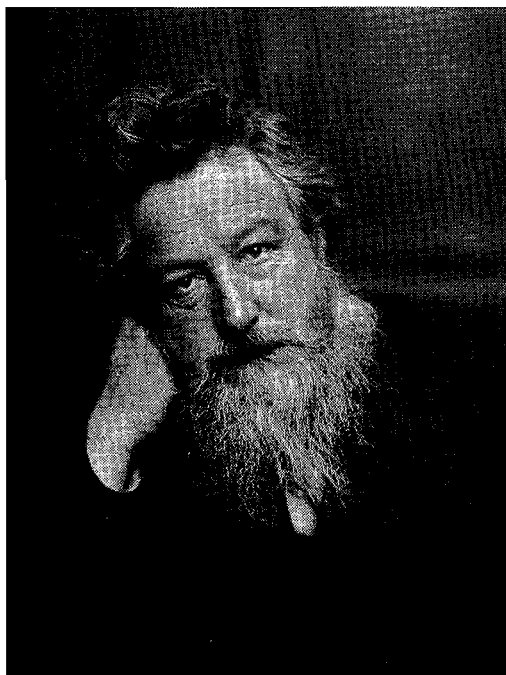
“Illustrated London News”で報道された
ディアナ号の沈没

ウィリアム・モリス全集

全24巻 復刻版

The Collected Works of William Morris
24 vols

1991年10月刊行 ISBN 0-415-07972-1 ¥250,000
(Routledge/Thoemmes Pr.) -UK-/(Kinokuniya)-JA-



19世紀英国の詩人、デザイナーにして社会改革家であるウィリアム・モリス(1834-96)の全集全24巻が、復刻の運びとなりました。

本全集は1910年から1915年にかけてロンドンのLongmans, Green & Co.から限定1,050セット刊行されたオリジナル版の復刻版です。

文学部/芸術学部図書館、英文学科/工芸学科研究室に、お勧め申し上げます。

表示価格は税抜き価格です。消費税3%別途申し受けます。

日本総代理店



株式会社 紀伊國屋書店

(新館) 〒156 東京都世田谷区桜丘5丁目38番1号

電話問い合わせ先

(03) 3439-0161

内線 444

1991年12月 通巻第295号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目21番4号 千代田会館5階20号室 ☎ 3271-6901 FAX. 3271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎ 371-5329